キア・オラ（Kia ora）！私たちは山形県立酒田光陵高等学校ビジネス流通科です。
兵藤弥生です。佐藤海月です。佐藤風花です。
よろしくお願いします。

この資料は、昨年１０月に酒田市で行われた“さかた産業フェア”で地元の方に紹介した、私たちの活動内容です。
障がい者の所得向上を目指した商品開発、ニュージーランドホストタウンの PR、地球温暖化と海洋プラスチックゴミをなくすための活動をしています。

さかた産業フェアの様子です。

このように障がい者の皆さんが作る商品を販売してきました。

先輩方から受け継いだものを私たちのアイデアを加えて活動を継続しています。

私たちの活動のベースは、授業で学んだ日本国憲法 25 条と 27 条にあり、
障がいがある、ないにかかわらず、みんなが幸せになれる、差別のない社会を
酒田に作りたいと考えたことにあります。
ですから、障がい者の方の所得向上を目指して

自分たちの学びそのものを社会貢献につなぎ
障がい者の方の商品の販路拡大や商品開発に取り組んできました。

その取り組みの一つが校内の弁当販売を障がい者の方が勤務する施設に作っていただき、安定した販路を確立しました。
また、先ほどのさかた産業フェアでの出店企業向けの弁当販売を請け負い、私たちが販売しています。

本校の工業科と普通科と協力し、障害があるなしに関係なく積極的に雇用に取り組んでいる地元の手作りパン屋さん「ブーランジェ　メーテール」さんの
焼き印を作り、提供し、雇用増大・所得向上を行っています。

このような障がい者の方の自立実現を目指した取り組みを私たちがビジネスとして実現できるように、
日本政策金融公庫主催高校生ビジネスプランコンテストに応募しました。
応募したすべての年にベスト１００に選ばれました。

私たちの取り組みに共感してくれたのが、私たちの学校にボート部コーチとして赴任してきた SEA のベンジャミン・ボウルス先生です。
ベンジャミン先生はニュージーランド出身でボート競技のナショナルチャンピオンです。

ベンジャミン先生は、私たちにニュージーランドの企業が行う障がい者支援や雇用の状況、支援の在り方を教えてくれました。
私たちが見本とすべきビジネスで障がい者を支援するという課題解決の方法を知ることができました。
ダイバーシティを実現しているニュージーランドの考え方、そして先生自身が行っている、地球全体で自分はどんな役割ができるか、ということを常に考えさせてくれました。

ベンジャミン先生は、私たちの取り組みに“Together as One ”というプロジェクト名を命名してくれました。
また、イエール大学でグラフィックデザインの勉強した技術を活かし、オリジナルロゴを作ってくれました。
そして先生の友人であるオリンピック選手やニュージーランド人の方を学校に呼んでくださり、国際交流の機会を設けてくれました。

私たちの活動に共感、協力してくださったのが、酒田市役所の皆さんです。
この写真は酒田市民の皆さんに酒田市が東京オリンピック・パラリンピック大会トライアスロンチームホストタウンであることを PR するために地元商店街で販売実習をした様子です。
ベンジャミン先生が準備してくれたニュージーランドの生はちみつを初めて酒田市民の方にテイスティングしてもらっているところです。
ベンジャミン先生もイベントに参加してくれています。
ホストタウン PR とともに障がい者の方の商品を販売する機会をいただきました。

そして当時のニュージーランド駐日大使スティーブン・ペイトン閣下を本校の鈴木和仁校長先生とおもてなしする機会を設けてくださり、貴重な経験をすることができました。

酒田市役所の皆さんからは私たちが地元社会とつながる学びの機会をたくさん作っていただきました。
海外クルーズ船のおもてなしや世代を超えた酒田市民の皆さんと地域の未来計画を考えるなど、
たくさんの学びとともに地域の方との「つながり」ができました。

さらに酒田市役所の皆さんからは、酒田市で行われるトライアスロンレースに参加するニュージーランドの若手選手“ヤングキウイ”と交流する機会を設けていただきました。
私たちは世界で活躍するヤングキウイの皆さんに日本ならではの体験をしてもらうおもてなしを企画しました。
カイル・スミス選手には日本のラッピング技術“水引”を体験してもらいました。

ヤヌス・スターフンバーグ選手とルーベン・トンプソン選手、彼らをサポートしてくれたベンジャミン先生には
篠笛と和太鼓で、酒田祭りで演奏される“酒田囃子”を体験してもらいました。
地元の印刷会社ミキ・プロセスさんと協働し障がい者支援を目的とした商品開発しているペーパークイリングによって作成したプレゼントをさせてもらいました。

今年度のトレント・ドット選手には風呂敷、手ぬぐいによる日本式ラッピングを披露し、体験もしてもらいました。
事前キャンプ決定の締結式では手ぬぐいで作ったエコバックを選手の皆さんにプレゼントしました。

酒田がニュージーランドホストタウンであることを市民の皆さんにPRするため、地元商店街の方から
イベントの度に販売実習の場を提供していただき、ニュージーランド産はちみつを販売しました。
私たちの活動に協力して下さったのが、Pbees（ピービーズ）さんです。ニュージーランド産生はちみつ専門店で、上質でかつニュージーランドならではのめずらしいはちみつを高校生の私たちに仕入れさせてくださいました。

このクッキーは、ニュージーランドでは大変有名な、クッキータイムという会社が作っているチョコチップクッキーです。
昨年1月に酒田市が行った“パラスポーツと心のバリアフリー＆ニュージーランドフェア”で初めて販売しました。
非常に好評ですぐに売り切れました。

このクッキーの販売にあたっては、酒田市と同じニュージーランドホストタウンである神奈川県厚木市のホストタウン担当の森下さんが酒田市の担当池田さんに紹介してくださり、私たち酒田光陵高校ビジネス流通科の私たちが仕入れることができるようになりました。
全国のニュージーランドホストタウン同士のつながりによって実現した私たちの販売実習です。酒田市以外のイベントでも販売し、PRしています。

私たちは東京オリンピック・パラリンピックホストタウンをきっかけに、あらゆる面でニュージーランドと
いつまでもつながっていこうと考えています。

ニュージーランド・酒田のそれぞれがもつ素晴らしい資源・財産を活かして「モノ・コト」をつくり、協働してつながっていきたいと考えています。

この私たちの取り組みに地元酒田にある東北公益文科大学の皆さんが協力してくださいました。
東北公益文科大学にはニュージーランド研究所があり、ニュージーランドに行ったことがある先生、学生の皆さんが私たちにニュージーランドについて指導してくれました。

多様性を認め合いお互いを理解して尊重しあう社会、障がいは個性であるという風土、マオリ文化と食、マオリ語と手話が公用語であること、
ラグビー（オールブラックス）の強さやハカ、また、環境保全に積極的かつスピーディーな取り組みについて学びました。

私は環境保全の高さに興味関心を持ち、ニュージーランドと同じく海にかまれた日本、そして海の恵みによって生きる酒田ならではでできることはないかと考え、風呂敷を使うことで海洋プラスチックゴミを減少を目指す取り組みを考案しました。
このアイデアを今年度のビジネスプランコンテストに応募し、ベスト１００に選ばれました。

このように私たち２年次生は商品開発という授業においてお互いの良いところをつなぎ、掛け合わせて持続するビジネスを作りたいと考えています。
今すでに存在しているお互いの資源を繋いで新たなビジネスを創造できるようにしていきたいです。

ビジネス流通科１年次生は、『公益と産業社会』の授業において、様々なアイデアを創造しています。
発表時のスライドです。
このアイデアは、パラリンピック競技だけでなく、車いす利用者に対応するため、酒田の海岸にバリアフロービーチを導入したいと考えたものです。
同じく山形県の長井市で行われている車いすパラグライダーと連携し、バリアフリーツアーを行いたいと考えています。

また、私たちはオールブラックスのバレット三兄弟を酒田に呼びたいと考えています。

バレット三兄弟の妹さんはダウン症に伴う言語障がいに対するサポートを必要としています。
バレット三兄弟が支援しているニュージーランドのダウン症患者の言語障がい支援団体『Upside Downs』の日本支社を酒田に住む私たちが作り、日本からもより多くサポートできるように、そして国内の障がい者にも支援できるようにしたいと考えています。
これはニュージーランドのキウイやオールブラックスのユニフォーム、ラグビーワールドカップをイメージして作った酒田伝統の傘福で、私たちが作りました。これを『Upside Downs』に寄贈し、交流していきたいと考えています。

私たちビジネス流通科は、いよいよ本番を迎える東京オリンピック・パラリンピックに向けて酒田に来るニュージーランドトライアスロンチームを気持ちよくウエルカムしたいので、ポイダンスをみんなで練習しています。

酒田市民がニュージーランドの国歌を歌えるようにしたいので、私たち自身が市民に PR できるよう練習しています。

できるかどうかはわかりませんが、障がい者の方の働く場であり、健常者が触れ合う場となるように、ニュージーランドスタイルカフェの実施を考えています。

大会前のキャンプでニュージーランドの選手団の皆さんがホームシックにかからないよう、ニュージーランドの食文化を学び、今後酒田産の農作物をニュージーランドの方に知ってもらうために、光陵高校駐車場で定期市を行いニュージーランドのオーガニック商品を販売します。可能な限り、量り売りや包装リサイクルを行い、ごみなし販売のスタイルを確立します。

酒田市民がトライアスロン競技を知らない、理解していないようなので、市内の高校生対抗なんちゃってトライアスロン大会を行いたいと考えています。

私たちはこれまで紹介した活動を通して、もっと世界を知りたい、英語を学びたいと思いました。
そして外国人の方とのコミュニケーション力を高め、海外の方とのつながりについて考え方が変わりました。

酒田市役所の皆さんのおかげで、たくさん異文化・多文化に触れることができ、その機会を

通していかに自分たちが地元を知らないか、そしてその良さを知らなかったか、ということを実感しています。
またニュージーランドホストタウン事業を通して、ニュージーランドの素晴らしさを学ぶことができました。

私たちは、自分たちの地域だけというリージョナルな社会だけではなく、地球全体であるグローバルな社会を同時に豊かにしようとする視点の大切さをこの活動により学びました。
私は２月上旬に酒田市役所の皆さん、東北公益文科大学の皆さんとともに実際にニュージーランドに訪問し、現地の皆さんの人としての優しさ心の広さを直に感じることができました。

“Together as One”。

つながる。ひろがる。ひとつになる。

私たちは地域全体でニュージーランドトライアスロンを応援したいと思います。
ありがとうございました。キアオラ！